

令和の雨水対策

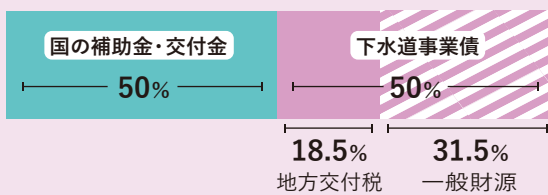
～雨水管理総合計画に基づく展開～

平成30年3月、津市は県内でいち早く「雨水管理総合計画」を策定しました。浸水リスクの高い14の地区を重点対策地区に選定し、集中的に浸水対策を実施しています。

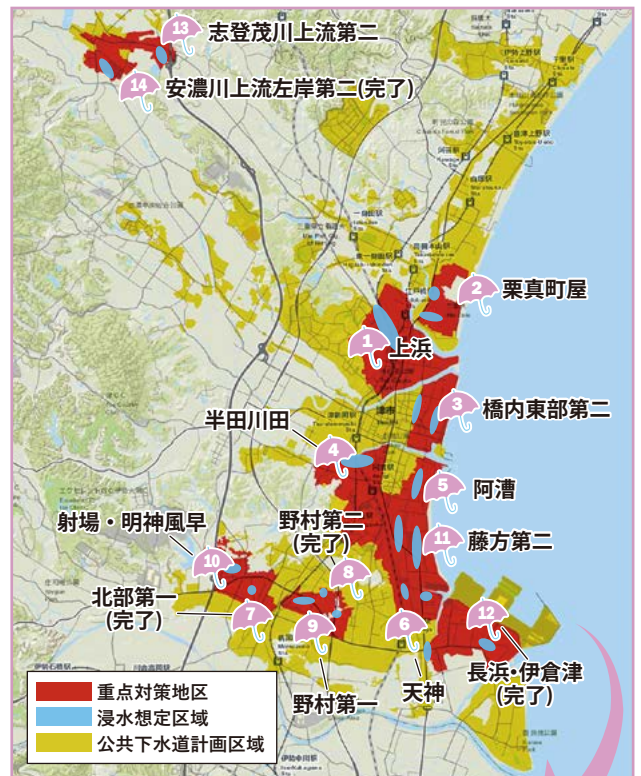
事業費として国の「防災・安全交付金」と「大規模雨水処理施設整備事業」を活用し、令和元～10年度の10年間で約140億円投資します。

令和2年度末の浸水対策達成率は46.3%、令和10年度末の目標達成率は66.4%です。

浸水対策事業費の財源内訳



重点対策地区(14地区)



重点対策地区の整備状況

事業費：約8億5,600万円

栗真町屋排水区

(整備延長：432m)

令和5年度
完成予定

幅2mの雨水幹線を整備し、排水先を江戸橋排水機場から栗真町屋ポンプ場に切り替えることで、三重大学周辺の浸水被害を軽減します。



事業費：約4億9,700万円

野村第一排水区

(整備延長：39m、調整池：貯水量約2万t)

令和4年度
完成予定

今年度、野田池の改修により水位を90cm下げ、洪水調整池としての機能を付加し、久居駅東側地区の浸水被害を軽減します。



事業費：約48億4,000万円

半田川田排水区

(整備延長：1,769m、ポンプ場：1カ所)

令和8年度
完成予定

令和5年度に半田川田ポンプ場が一部供用開始予定。管径2.8mの雨水幹線を整備します。



事業費：約57億1,800万円

藤方第二排水区

(整備延長：1,517m)

令和8年度
完成予定

今年度から管径3.4mの雨水幹線を先行整備。藤方ポンプ場(仮称)が完成するまで貯留管として雨水を貯留し、浸水被害を軽減します。